

SF

1969・4 No.1

特集：新入生歓迎！

- * サークルとしてのSF研究会
- * 活動内容
- * SF講座
「タイム・マシンの作りか」
- * SF研究会概略・連絡先

明治大学SF研究会

最近、SFはブームであると言われている。しかし、そのいわゆるSFブームは、昨年暮れのアメリカの『タイム』の成功等の一連の米ソの宇宙開発競争や、一時の狂歌ブーム、そしてSF映画・テレビ・マンガ等によるものではないかという気がする。もっとも、明治大学にSF研究会などというものがあるので、その自体が、SFの先駆者たちから見れば、ブームであるが。

SFとは、空想科学小説のことであるとすると、宇宙探査や、怪獣は確かにSF的ではあるが、少なくとも小説ではない。SFという文学を理解する為には、SFを読むしかないであろう。SFを蔑視する人の多くはSFを読んだことのない人か、想像くまの悪い作品に当って、これがSFだと思ひ込んでしまった人か、どんな文学にも感動できない人であろう。

SFが、一時のシメテリブームの野のやうな、

多くの人々に読まれるようになったならば、本当の意味でのSFブームが来さるだろう。何故なら一度SFの真髄に酔った人は、必ずやSFのエッセイ・インタビューとしての愉しさに魅せられるだけでなく、SFの中にそれ以外の何かを見つけ、SFのとりこになること必定だからである。

* * *

SFとは、作家が科学的方法として知られる人間の行動の本質とその重要性を意識し、さらに、その行動によって集積された人間の知識の体系を意識することによって、科学的方法と科学的事実とが人類に与える影響、将来において与えるかもしれない影響を、小説中にとりいれたものである。

レジナルド・アレットナー
「SF入門」(早川書房)より

〈サークルとしてのSF研究会〉

明治大学SF研究会は、昭和43年1月23日に発足し、今年がその2年目にあたる。しむがって、サークルとしての組織活動が確固たるものになっていないという事は否定できない。SF研究会などというと、いったい何を研究するというのかという疑問を持たれる人が多いと思う。SFはただ単に、空飛ぶ円盤や火星人の出てくる小説だと考えている人にとっては、何と幼稚な、馬鹿くしいサークルがあるものだと思うかもしれない。いったいSFには、いい大人が研究などする価値のあるものなのか。

SFは21世紀の文学であるといわれる。確かに文学としてのSFには、あらゆる可能性がある。つまりは人間を描く文学が、一面的な、正面から人間を描く手法に行詰りをみせた時、それを打ち破り、新しい角度から、人間を描くことのできるのがSFであるかもしれない。

このようにSFには、エンタテイメントとしての楽しさと、それ以上の何かがある。したがってSF研究会の方向にも多くの方向があると思う。明治大学SF研究会の基本方針としては、

1. SFを研究し、それを発展させることを目的とし、SFを通じて古い常識や既成概念にとらわれないSF的思考を養い、新しい時代に応じた科学と文学の両面を理解するよき地球人としての教養と身につける。

2. SFを理解するものが集まり、共同研究をすることによりとまれば人間界外におち入りながら大学生活の中で豊かな人間関係を形成し、有意義な大学生活を送る。

ということである。とにかく、SF自体がこれからのものであると同様に、SF研究会もこれからのものである。明大SF研には、他のサークルにあるような立派な伝統はないが、そのかわり、多くの可能性がある。新入部員は、自らやる気概をこめて入って来てもらいたい。またSF研究会はその気持がすぐに生かされるサークルでもあるのである。

新入生 説明会

〈相模地区〉

・4月14日～18日

・昼休み(11:40～12:40)

・305教室
(第1校舎3階)

〈生田地区〉

明大SF研究会

〈活動内容〉

1. SF同人誌「テラ」発行

* 原則として年2回発行。ガリ刷り・50P程度

* 内容は、創作・翻訳・科学解説などSFのすべて。

2. SF研究会・機関誌・P.R誌「SF」発行

* 毎月1回発行。ガリ刷り・10P程度

* 明大SF研の会員相互の人間関係をより豊かにする為の
もので、内容はSFに限らない。また各大学寮などの時
にはP.R誌的な役目をする。

3. 読書会

* 内外のSFの中から、比較的問題意識をもってSFを読
んで、それについて討論する。

* 初回は、小松左京の短編「神への長い道」

4. 科学ファン

* SF的な科学現象へウラシマ効果・反重力・E.S.P.等
をある程度専門的に研究する。

* 生田地区が中心となる。

5. 講演会

* SFの中から各自が得意な分野について、講演する。

* 人前で、ある程度まとまった話をする練習をする。

6. 討論会

* あらゆる問題について、気楽に話し合いたい。

7. その他、SF映画鑑賞会・遊びの会eetc.

なお、明大SF研究会は次にあげる会を抱合する。

- ・スペース・オペラの会
- ・サイバネティクス研究会
- ・火星文化研究会
- ・星新一研究会
- ・相対性理論研究会
- ・SFアートの会
- ・超能力者(エスパー)同盟
- ・タイム・マシン研究会
- ・空飛ぶ円盤研究会
- ・SF映画研究会
- ・A・C・クラーク研究会
- ・翻訳の会
- ・ミステリ同好会
- ・ブラッドベリ研究会
- ・空想天文学研究会
- ・SFマンガ同好会
- ・P・K・デック研究会
- ・反戦SF研究会
- ・幻想・怪奇小説研究会
- ・未来学研究会
- ・時間旅行調査委員会
- ・BEM同好会

『タイム・マシンの作り方』

講師 東京都教育の大学名誉教授

朝永 秀樹

今日は、皆様おなじみのタイム・マシンの作り方について、簡単に御説明することになっています。

タイム・マシンというのは、日本語に訳せば「時機」とでございまして、要するに、時間を旅行して、過去や未来へ行かれるという乗物のことであります。タイム・マシンでする旅行のこととタイム・トラベル(時空旅行)と言いますが、これにつまましては、既にいろいろな人々によって語述されているところがあります。皆様の中でこれらのお話をよ読みになされた方が多勢いらっしゃると思います。そして、その結果、タイム・トラベルというものは何ともややこしく、考えれば考えれば頭がこんがらがってきて、自分の思考の至らなさにイライラなされた方もおありのことと思います。へそととぞごがタイム・トラベルを考える上に、おもしろい所以であります。タイム・パラドックスの有名なものに「殺殺しパラドックス」

があります。タイム・マシンに乗って過去へ行き、自分が生まれる以前の両親、あるいはそのどちらかを殺したら自分はどうなるか? という逆説です。もし自分が両親、あるいはそのどちらかを殺したら当然自分は生まれてこないはずですが、生まれてくる人さ中にはいないと限りませんが、何しろ複雑な世の中ですから、とにかく普通でいたら生まれてこないはずで、そうすると自分はこの世に存在しないのだからタイム・マシンに乗って過去へ行って両親を殺せるはずがない。両親が無事なら、自分は生まれなくて、そうするとタイム・マシンに乗って……、いかに露骨な私といえども少々頭がおかしくなってしまう。

何故にタイム・トラベルの問題がややこしいかというと、それは、実際にタイム・マシンを作った実験をしないからであります。昔のちらい人々言っております。百聞は実験にしかず。実験は成功のこと、論より実験。だと歩けば実験にあたる。

しかしながら、タイム・マシンなどというのは、いい年をしてSFがごとき、世に荒唐無稽・支離滅裂・奇想天外・妖怪変化、幻想怪奇・波瀾万丈・天変地異、現実逃避・精力絶倫、無知蒙昧なホラ話に身をやつしている者のたわごとであり、現代の自

然科学からみて明らかた不可能である。などおっしゃる方
とおられるかもしれません。しかし、そのようなことは決して
あてにはなりません。19世紀の末に、空気より重いものが
空を飛べるはずがない、と頑強に飛行機などというのを否定し
た有名な科学者がいたのであります。しかるに、現在を見てみ
れば、飛行機は世界を結ぶ主要交通機関となり、科学の營業的
発達に超音速飛行機を生み、さらには月への着陸を達成しよ
うとしているのです。

このように科学は、20世紀の間に飛躍的な発達を遂げて
あります。タイム・マシンの一つぐらいが何でありましょう。
実を言えば、何をかくそう、かく申す私自身、未来からのタイ
ム・トラベラーであります。時間旅行法第473条によって、
タイム・トラベラーが旅行先でその身分を明かすことは禁じら
れているのでありますが、言ってみれば、たそのはしかたがあり
ません。私は2011年にタイム・マシンを完成しました。そ
して過去や未来を旅行しているうちにふと明治大学に学んでい
た頃のことを思い出しました。当時、私はSF研究会に所属し
ておりました。SFは現在(2011年)でこそ文学の主流
として、確固たる地位を築き、日本のSF界から既に2人のノ

ーベル賞作家を輩出し、明治大学SF研究会を、毎年、入部希
望者が殺到し、その入部試験は、入学試験以上の激烈を極め、
明大SF研究会編成が厳重に行われている有様であります。当時(1969年頃)はまだSFが一般に理解されていなくて、明大
SF研究会員不足に悩んでいたのを思い出し、少しでも母会の役
に立とうと、給用のタイム・マシン「テラゴ」を駆ってやって
きた次第であります。

私の時間旅行に關しては数々の失敗談があります。時間旅行
は歴史を変えてしまうおそれがある為、多くの規制がありま
すが、私は大なる粗忽者で、よく落として物をします。一度など
古代研究の爲に、中世代の志きアロントザウルスと、ネアンデ
ルタール人を選んでいて時に、前者をスコットランド上空で、
後者をヒマラヤの上空で落としてしまいました。また一度は、
科学の本をルネサンス時代のイタリアに落としたことありま
した。その後、ネス湖に恐竜が出るとか、ヒマラヤに雷男が出
るとかという話を聞く度に、申し説けない気持ちになります。

タイム・マシンの作り方を講義する予定が、話が横にいつて
しまいました。作り方は、皆様が明大SF研におはいいりにな
った時にお話しすることに致しましょう。

* 昭和44年度 活動予定表 *

* 例会	本校・和泉・生田各々週2～3回。	4月	新入部員募集・説明会 新入生歓迎コンパ
* 総会	全地区・月2回	5月	親睦会(ハイキング)
* 読書会	月1回(全地区)	6月	和泉祭
* 科学会	2月に1回(生田中心)	7月	「テラ」3号発行
* 討論会	シ(全地区or各地区)	8月	夏期合宿
* 講演会	年2回(全地区)	9月	
* 映画会	いいSF映画が来た時	10月	
		11月	駿台祭 生田祭
* 合宿	年2回		
* コンパ	年3～5回	12月	「テラ」4号発行

* 明治大学SF研究会 概略 *

昭和43年 1月23日	発足	会員数
6月 1～2日	和泉祭「SFとは何か？」	駿台 4名
7月 1日	SF同人誌「テラ」創刊号発行	和泉 3名
11月 1～4日	駿台祭「SFに現われる近未来」	生田 7名
12月10日	SF同人誌「テラ」第2号発行	
昭和44年 2月 7-8日	合宿(伊豆・修善寺)	入会金 ¥500
		部費 ¥1500 (年間)

* 役員名簿 *

- 会長 大西尹明(商学部教授)
- 幹事長 北島利幸(法3)
- 生田支部長 藤本佳延(農3)
- 和泉支部長 井沢誠一郎(商2)

SF 1969-4 No.1

昭和44年4月10日 初版発行

*

著者 不特定少数

発行者 北島 利率

*

印刷 地球印刷株式会社

製本 株式会社 明大社

*

発行所 明治大学SF研究会

(駿台・和泉・生田)

定価 50円

（検印廃止）